

東日本大震災・白石市の主な被災状況

平成24年9月30日現在

白石市復興対策室まとめ

ライフラインの被害・復旧状況

電気・電話は震災発生と同時に全域で使用不能。水道も市内世帯の約六割が断水しました。そのほか深刻な燃料不足や食糧不足にも悩まされました。

電気	3月11日地震発生と同時に市内全13,915世帯が停電 3月17日全世帯が復旧
電話	3月11日地震発生と同時に市内全13,915世帯が不通 3月24日全世帯が回復
上水道	3月11日地震発生と同時に約8000戸断減水(白石川以南ではほぼ全域断減水。簡易水道では三住・湯元地区が断水) 3月28日市内全域で通水
	4月7日の余震により約300戸断減水(郡山・緑が丘・寿山・白川の一部) 4月12日市内全域で通水

*上水道では、給水車が8台出動し、移動給水所30箇所・常設給水所1箇所を設置し、延べ22,152人に給水活動を行いました。

人的被害の状況

市民4名の尊い命が奪われ、判明しているだけで20名が負傷しました。

死者 4名(津波による死亡2名、作業中事故1名、火災1名)

けが 18名(3月11日)、2名(4月7日)

住家被害(り災証明結果による。平成24年5月1日現在)

全世帯(13,915世帯)中、2,830世帯が被災し、5世帯に1世帯が何らかの住家被害を受けました。

被害区分		棟数	世帯数	全世帯中の割合(%)
内訳	全壊・全焼	41棟	49世帯	0.4
	大規模半壊	83棟	94世帯	0.7
	半壊	483棟	522世帯	3.8
	一部損壊	2,171棟	2,165世帯	15.6
合計		2,778棟	2,830世帯	20.3

*公的支援による損壊家屋の解体処分 389棟(平成24年5月31日現在)

避難指示・勧告箇所

地滑りなどの危険性から緑が丘・城南地区など最大で27世帯73人に避難指示・勧告を出しました。(平成24年3月26日全解除)

避難所開設状況

最大(平成23年3月13日)で23箇所の避難所に1,910人が避難しました(9月30日で全避難所を閉鎖)。延べ避難者数は18,437人でした。

避難者・仮住まい者の状況(平成24年9月末把握分)

約800名の方々は今もなお、仮住まいの生活を余儀なくされています。

仮住まい中の市民の方 89世帯251人(白石地区168、福岡15、白川18人など)

宮城県内からの避難者 31世帯93人(山元町33、石巻市16、亘理・多賀城各13人など)

福島県からの避難者 157世帯454人(福島市186、南相馬市157、伊達市53人など)

白石市から他市町への避難者 最大時で54人が避難(全国避難者情報システムによる)

東京電力福島第一原子力発電所事故の影響

白石市は東京電力福島第一原子力発電所から半径60~70km圏内に位置し、通常よりやや高い放射線量を計測しています。このため市では市内各地の空間放射線量や農産物・食品などの監視測定体制を強化しています。また、国の「汚染状況重点調査地域」に指定されたことに伴い、除染計画を策定して小中学校や保育園などの除染作業を計画的に実施しているのを始め、さまざまな放射能対策に取り組んでいます。